みんなねっとフォーラム2018

シンポジウム
「精神障害者が安心して暮らせる地域づくりを共に
～当事者・家族ができること～」

下町のアウトリーチ
～地域で、地域とともに、地域にこだわる

岡﨑　公彦
岡﨑クリニック

発表に関連し、開示すべきCOI関係にある
企業などはありません

岡﨑クリニック

- 所在地 ： 東京都墨田区
- 訪問診療・往診を中心としたクリニック
- ACT(Assertive Community Treatment： 包括型地域生活支援)をモデルとしたケースマネジメント
- スタッフ構成

  医師 1名　看護師 1名　作業療法士 １名

  精神保健福祉士 2名

クリニックを開業した理由

- 急性期化が進み入院期間は短縮傾向にある

- 慢性の長期入院者は減っていない
- 地域と病院の間には大きな溝があり、意志疎通、情報共有ができているとはいえない
- 重度の精神障害を持った方への対応は相変わらず

クリニックを開業した理由

- 病院自らの改革の先に何があるのか
- 病院で出来ることには限界があるのでは？
- むしろ病院が担うべきではないのでは？

クリニックを開業した理由

地域(生活の場)で可能な限り

サポートしていく方法はないか？

クリニックを開業した理由

リカバリーという概念

ACTとの出会い

ACTについて

Assertive Community Treatment：包括型地域生活支援

従来のサービスでは安定した地域生活ができず、結果的に長期入院や頻回入院を余儀なくされていた重度の精神障害者を対象としたケースマネジメントの一類型であり、保健・医療・福祉にわたる包括的なケアを、多職種のチームアプローチで集中的に提供する援助方法

１９７０年代初めウィスコンシン州マディソン市メンドータ州立病院で始まって以来、アメリカの41州で、また、カナダ、イギリス、スウェーデン、オーストラリア、フィンランドなどでプログラムが遂行されてきた

我が国では、平成１４年度から厚生労働科学研究として始められ、実践活動は平成１５年５月からACT-Jによって開始された

全国で20を超えるチーム（ACT全国ネットワーク団体会員）が活動しているがACTは制度化されていない

ACTについて

Assertive Community Treatment：包括型地域生活支援

基本的な特徴

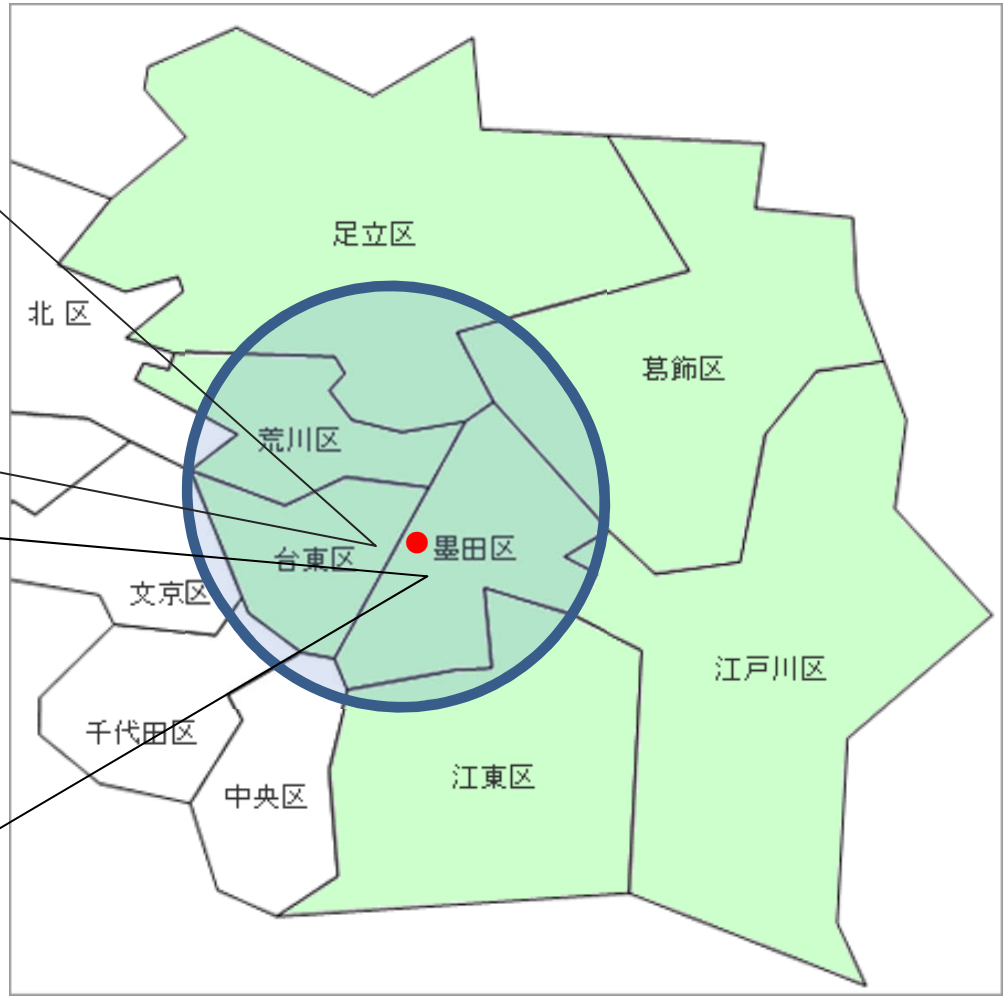
・リカバリー(recovery)
・パーソンセンタード
(person- centered service)
・ストレングス視点
・多職種アプローチ
・アウトリーチ
・24時間365日のサービス
・個別支援チーム（ITT）の形成
等を特徴

提供されるサービス

日常生活の支援
住居サービスに関する支援
経済的サービスに関する支援
社会的ネットワークの回復と維持のための支援
就労支援
家族支援
薬の処方と提供
病気と服薬を利用者が自己管理するための支援
個別支持的療法
危機介入
入院期間中の継続支援
身体的健康に関する支援

訪問エリア

東京都東部（墨田区、足立区南部、台東区、荒川区東部）



利用者の傾向

- 重度精神障害者
- 未受診・治療中断者が８割
- 依頼ルート　：　ほとんどが関係機関から

　保健センター、地域包括支援センター、生活福祉課、精神科病院、精神科クリニック、相談支援事業所など

重度精神障害者の特徴

精神症状や障害が重度であるばかりではなく

人との関係が断たれ

社会や地域から孤立している

近隣とのトラブルを抱えている場合も

過去のイベント（いじめ、挫折、治療歴等）
医療不信、猜疑心、恐怖心、セルフスティグマ

40代　男性　統合失調症

- 19歳頃発症。しばらくは定期的に通院していたが中断してしまい、母だけが相談に行っていた。
- 平成19年幻聴活発で自宅で興奮し2ヶ月間入院。
- 退院後は本人が受診したのは1回のみでその後は母が代理で受診し処方を受けていた。
- 本人は外に一歩も出ず、機械が壊れたなど気に喰わないことがあると騒ぎ暴れる状況が続いていた。

- 主治医より「本人が受診しないと処方できない」と言われ、精神保健センターに相談したところ当院を紹介される。
- 初診時、表面的で診察をすぐに終わらせようとするが、定期的な訪問には渋々了承し以後定期的に訪問診察を行う。
- コンポが壊れ「新しいやつを買ってくれ」と大騒ぎになったことをきっかけに当院スタッフが介入開始。

本人の変化

- スカパーの支払いのため家の手伝いを始める
- これまでは困りごとがあると母にせがんでいたが、その後は当院の緊急電話に連絡をくれるようになる
- 壊れた携帯電話の修理のため電気店に外出
- 大声を出し騒ぐことは減り、モノを壊すこともなくなる
- 自転車を購入しスカイツリーまでサイクリングに行く計画を立て始める

両親の変化

- 父が本人に話しかけるようになる
- 本人の要求を母が一手に引き受けてきたが、父も担うようになり、両親ができないことは当院に連絡するよう本人に伝えるようになる
- 本人の言動に怒ることもあるが、本人に守ってほしいことは文書にしてサインをかわすようになる
- 自分たち亡き後の本人を案じているが、「ボチボチでいいですよね」との言辞も聞かれるようになる

地域における当院の役割

- 地域における医療としての役割

  トリアージ機能

- リカバリー志向の実践

  重度の精神障害を持つ方が主体性を取り戻し、自分でこれからの人生を生きていこうと思える状態にすることを目指す

僕らがやっていること

地域での下支え

医療・福祉からの地域づくり

これからの課題（僕らがやるべきこと）

・地域精神医療の充実

制度・人 × 質・量

・地域のあり方を考える

自立とは、個人はどうあるべきか

ご清聴ありがとうございました